

令和元年度 四季の里 事業所別事業計画及び事業報告

エリア	事業所	事業計画	事業報告
四日市	GH 四季の里	<p>①地域社会で自立した共同生活を送れるよう日常生活上の必要な援助をする。</p> <p>②高齢の利用者層に対応できるよう医療と連携した支援体制を構築する。</p> <p>③利用者が安心して生活を送れるように安全面・衛生面の環境を整える。</p> <p>④利用者の権利や人権を守るため関係機関と連携を深める。</p> <p>⑤「より質の高い福祉サービスの提供」を目指す。</p>	<p>①担当職員を中心に日常生活の援助ができていた、必要に応じて管理者・サビ管の助言をおこなった。</p> <p>②病院・訪問看護などの医療スタッフと話し合いをおこなう事で連携する事ができた。</p> <p>③防犯・衛生面で迅速に対応する事ができた。今後は感染症対策が急務になってくる。</p> <p>④医療や社協、日中活動・相談支援事業所などと連絡を取り合い本人の意向などの情報共有をした。</p> <p>⑤サービスの質を向上させる為の職員の目標設定・研修、利用者の満足度調査をおこなった。</p>
	あおぞらワーク	<p>①利用者様の活動が幅広く満足に選択出来る活動・プログラム作り。</p> <p>②作業と支援の両立を図る。</p> <p>③多種多様な障害・高齢化に対応出来る体制作り。</p> <p>④地域移行を目指し、個人が自立した生活を送る為の支援を行う。</p> <p>⑤関係機関との連携をスムーズに行い、地域社会へ送り出す利用者様を増やす。</p>	<p>①外部講師による創作活動、公共機関を使用した外出活動や入浴支援など事業所内のみならずのプログラム作りも行い満足して、もらえるように支援を行った。</p> <p>②工賃と利用者支援の両立が難しかった。訴えのある人の傾聴が多かった。訴えの少ない人についてはモニタリング時に話されることも多く、改めて傾聴時間の必要性を感じた。昨年度と比べて作業量や慌ただしさは減ったが、検品に時間がかかってしまった。</p> <p>③関係機関と連携やケース会議を行い、利用者の課題となる点を話し合いながら、その利用者ができることを活動や作業に取り入れ、その時々々の状況や様子を関係機関との連携をしながら支援を行った。</p>
	みのり工房	<p>①将来的に就労を目指す利用者に対し先を見据えた支援を行う。</p> <p>②日中活動の安定を図るため健康面・対人面等の支援に力を入れ、利用者の継続的な通所に繋げる。</p> <p>③就労支援体制を強化し、利用者の就労に対する意識向上を図る。</p> <p>④就労定着を安定させる。</p> <p>⑤地域とのつながりを深め社会的な関わりの機会を作る。</p>	<p>【就労移行】一日平均利用人数：10.2名 就労決定者数：4名 新規契約者数：9名（内就労移行アセスメント4名） 就労定着者数：9名</p> <p>【就労継続B型】一日平均利用人数：30.6名 新規契約者数：6名 就労決定者数：0名 就労移行への移籍：2名</p> <p>【事業共通】問い合わせ：44件 見学：42件 体験・実習利用者：34名 問い合わせ・見学は昨対比若干減少ではあるが、ほぼ横ばいである。今年度も長期入院・療養の方が多かったが、通所率は両事業所共々ほぼ100%であった。B型に関しては、通所日が皆無の状態の方がみえる為、対策が要検討である。</p>
	コミュニティハウスオレゴン	<p>①利用者が自発的に参加し、参加意欲が増進するプログラムの構築。</p> <p>②プログラムに参加することにより、健康・衛生面を維持できる環境づくり。</p> <p>③個別送迎の増強により、地域にでききっかけづくり支援の強化。</p>	<p>①職員間によく議論し、創意工夫を凝らしたメニューを実施するも、課題を残す。</p> <p>②運動不足解消等、健康増進に着目し利用者に提案する。十分な動機付けを行っていくことが必要である。</p> <p>③送迎可能地域の広域化がはかれた。</p>
	障害者相談支援センターHANA	<p>①困難ケースに対応していくため、広く多様なジャンルの研修・事例検討会に参加し、知識・スキルや支援力の向上を図る。</p> <p>②地域包括ケアシステム構築のため、インフォーマルな社会資源を含む関係機関との連携強化、地域住民への啓発を図る。</p> <p>③本人ニーズに基づいた支援の展開と共に、障害福祉サービス報酬改定を理解し、加算を丁寧に取得していく。</p> <p>④精神科病院、救護施設への啓発活動に力を入れて、長期入院患者等の意欲促進を図る。</p>	<p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所として目標設定が曖昧なため、第6期障害福祉計画をふまえて来年度は目標設定していく。 ・各自それぞれ研修への参加、月1回の事例検討は実施しているが、質につながっているのか効果の実感が得られにくい。客観的な物差しを活用して進捗状況の確認をしていくほうが良いのではないかと。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携強化は事業所回り等を通して取り組むことは出来ていた。しかし地域住民の啓発までには至っていない。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント研修で理解は深まるが、日々のケースには葛藤もあり、本人ニーズに基づいた支援は引き続き課題である。情報共有し、加算取得にはつながっている。 <p>④について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は具体的な啓発活動の実績がなかった。

令和元年度 四季の里 事業所別事業計画及び事業報告

鈴鹿	ブナの森すずか	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者支援を丁寧を実施していく。 ②利用者一人一人の日々の状態を把握していく。 ③報告・連絡・相談のスキルを向上させる。 ④職員4名を採用し、継続雇用を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①昨年度に比べ実施できた。 ②昨年度に比べ実施できた。 ③昨年度に比べ実施できた。 ④未達成
	パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ①個別支援と家族支援を意識したサービス提供の実施。 ②他機関、他職種との連携を図り、問題等の早期解決。 ③地域のニーズに沿った事業展開の検討。 ④全職員のスキルの向上及び職員研修の充実。 ⑤人材確保及び養成の充実。 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機関、他職種との連携を図り、問題等の早期解決など実施できた。 ・職員研修、部署会議は人材不足、予定変更等の理由で実施できない月があった。コロナウイルスにおける社会的影響のため、来年度は外部研修の代わりに書籍等を利用し、研修を実施していく。 ・人材確保についても、派遣会社の利用、求人活動を継続していく。
伊勢	GHいせ	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者が生活しやすいように安全面、衛生管理を継続する。 ②緊急時対応がスムーズにできるようにする。 ③利用者のニーズに沿える支援ができるように職員研修をする。 ④利用者が楽しんで健康支援に参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員1人1人が意識して取り組むことができた。換気、消毒等マニュアルを作成し実施した事で利用者の健康面への配慮ができた。防災訓練や防犯訓練の年6回実施する事ができた。 ②マニュアルの更新はできなかったが職員、支援員への周知はできた。 ③利用者ニーズに沿った支援を把握し、個別支援計画の作成を実施した。 ④レクリエーションは2回しか実施できなかった。健康支援では食生活の事や体力作り、公園で運動をしたり、絵を書いたり、利用者の得意とするものも引き延ばすこともできた。
	はじまり作業所	<ul style="list-style-type: none"> ①就労移行の新規利用者を伸ばし、一般就労して長く定着できるように支援していく。 ②平均工賃10,000円以上を実現させる。 ③職員の利用者対応のスキルをアップさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今期6ヶ月以上の就労をさせることができ、来季の受給費に繋げることができた。 ②市役所・清掃センター等担当者に営業を行い、作業の獲得に向け活動した。平均工賃7,800円（実績） ③部署会議で利用者の問題点を話し合い、職員で共有することが出来た。
	杜の作業所	<ul style="list-style-type: none"> ①付加価値のある作業獲得により作業意欲を高め作業を通して地域社会に貢献して更なる利用者の能力の向上を目指す。 ②安定した通所率の確保をするためより一層のネットワークの強化を図る。 ③生活介護の新たなメニューの考案と専門的な知識を身につける。 ④利用者ニーズを捉え適切な支援と質の高いサービスを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者が自信を持って作業に参加してもらえるよう細かくアドバイスを行った。企業先と連携を取り、新規作業の獲得ができた。また施設外就労はトラブルもなく安心し行けた。 ②利用者の傾聴や面談をおこない、要望を聞きメニューの見直しを行った。クラフトの活動メニューでは季節に応じた作品取り組みで楽しめる利用者が増えた。 ③障害の特性と利用者が望まれているニーズを知り、計画と行政の連携により65歳で介護保険を併用して利用される利用者に対して利用者が満足できる支援を提供することができた。 ④レクやお誕生会などの対応で気になったことや不安なことをその日の終礼や翌日の朝礼、部署会議などで意見を出し合い、統一した対応が出来るよう話し合いの時間を設けた。
	相談支援センターよろず	<ul style="list-style-type: none"> ①法人内や外部との連携、情報共有の強化。 ②利用者の高齢化に伴い介護保険が適応された方への支援の継続。 ③新規児童の獲得。 ④特定事業所加算に加え、新設された加算の獲得。事業成果に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①個人の状況報告を各部署から提出してもらうことで一連の流れを把握することが出来た。全体的な情報共有も必要とするが、各部署から個別支援の内容に沿った報告を受けることでより統一した支援を行えるように努める。 ②介護保険制度を利用しながら障害福祉サービスを継続していくため、包括支援センターや委託相談支援と連携をとり円滑な移行（引継ぎ）に努めた。また介護支援専門員と連携を取るために包括主催や基幹相談主催の会議に参加し、相談員同士の繋がりを増やした。 ③高校卒後の就労場所の検討など会議に参加し、事業所と学校と連携をとり法人内のサービス利用、新規獲得に繋げた。年齢に応じたサービス、事業者の提案など中高生の利用者のニーズを計画に反映させ、会議にも参加することで利用者確保に努めていく。 ④モニタリングで事業所を訪問し実際にサービスを利用している様子を確認しその支援内容を記録に残すことで加算、獲得に繋げた。

令和元年度 四季の里 事業所別事業計画及び事業報告

志摩	グループホーム志摩	<ul style="list-style-type: none"> ①新定員 28 名を 6 月中に満室にし、更なる事業拡大の準備に取り組む。 ②職員のスキル底上げと、チームワークの構築。 ③将来を見据え、近隣との繋がりを強固なものにする。 ④防災・危機管理の強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ①おりいぶ入居予定の利用者でキャンセル 1 名、手続き上の事由で遅延 1 名。PPH の 5 月入居予定者が 3 日目で再入院となり、新規の発掘が困難だったため、9 月に居室移動を行った。現在 PPH の待機者がいないため、満室であっても常に営業に注力している。将来 PPH は、A 型利用者中心の GH にしていきたい。 ②サビ管が不在にすることが多く、新任職員に対する指導が十分行えなかったが、先輩職員がよく補ってくれた。部署内研修を定期的に行うことが出来なかったが、次年度も継続とし、既に 2 名の基礎研修を受講予定している。 ③今年度初めて自治会の日帰り旅行に参加し、近隣住民との親交が深まった。 ④台風時 PPH 7 名は自主避難し、保存水や防災食の補充を行った。あみいご・おりいぶ用に備蓄備品を整備した。既存の避難訓練しかできなかったのが来年度の課題である。
	これから作業所	<ul style="list-style-type: none"> ①就労継続 A 型利用者から一般就労を支援していく。 ②作業収入を増やし、就労支援事業の健全化を図る。 ③生活介護の利用者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①就職応募者 2 名うち 1 名就職者することができた。 ②あおさ選別作業を新規で追加することができ、収益増に貢献した。 ③軽作業の提供により利用者が増え、定員と同数の登録者を得ることができた。
介護	有料老人ホームオーロラ	<ul style="list-style-type: none"> ①安全安心を与えられる職員の質と支援体制を確立する。 ②困難事例にも対応する相談支援体制を確立する。 ③重大な介護事故を未然に防止できる体制を確立する。 ④事業が維持継続できる収支バランスの取れた運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員の異動などで上位職からの意識改善を務めていたが、「0JT」以前に業務に向き合う意識改善が必要であった。 ②職員配置、教育が出来ていないため、原点（受け入れる責任など）からの見直しをしていく。 ③巡回職員によりヒヤリハットなどの意識は改善されているが、個々の意識にばらつきがあるため、利用者中心の考え方からの視点をもつように教育が必要であった。 ④受け入れる体制、流れを明確にし、利用者や現場が混乱しないフローチャートを作成必要がある。
	デイサービス	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者の生活の質の向上を目指す。その人がその人らしく生活をする。 ②スタッフの質の向上を確立する。 ③事業所の質の向上を図る。 ④困難事例に対応出来る体制を確立する。 ⑤事業収益の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報共有や支援の方向性は示していたが、職員での意識の差から目標に掲げることは出来なかった。 ②職員体制から現場優先になり、介護技術等の研修には行けていない。（認知症や MBC など一部のみ）コミュニケーションについては、職員での認識の差（自分では出来ていると思っている）が顕著に出ているため、根本からの教育が必要と感じられた。 ③連携がないとは言わないが、職員の個人差が感じられる。全てで通じるが「利用者中心」の考え方、業務の在り方などの根本から教育していく必要がある。 ④デイサービスだけの問題ではないが、「困難事例に対応する」の解決へ導く力、解決をしていくチーム体制などの教育、構築が必要と感じられた。 ⑤具体的なことはなく、有料の入居者が減少したことで、目標値の 78%には遠く及ばなかった。
	ハッピーランプ	<ul style="list-style-type: none"> ①介護保険制度のもと、利用者一人ひとりのニーズに応じた的確なサービスを提供するため、職員として求められる基礎的なマナー、考え方を全員が共有できるようにする。 ②困難事例に対応できる体制を確立する。 ③重大な介護事故「0」を維持する。 ④「介護報酬」の仕組みを理解し、収益の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①サ責を主に具体的施策は、ほぼ行えた。離職者は 0 であった。まだ職員に考え方や技術の差もあり、今年度は有料の入居者が減少したこともあり対応が出来たが、現在、入居者が増えている中、指導にも工夫が必要になると思われる、上期は個々（各事業）の考え方などから連携はうまくいかなかったが、年末くらいからは入居に対しても役割を明確になり、改善しつつある。 ②様々な事例にはサ責が中心となり取り組んでいる。 ③毎月の研修で意識を切らさず行えているが、職員の入れ替わりもないことから、「手を抜く」ことも見られるため、良い一層の意識改善は必要と感じられる。 ④収支については、管理者、サ責のみ意識は必要だが、収入を生む現場が「どんなサービスを行うのか」などの理解を教育し、そのための介護技術や高齢者と向き合う姿勢などを教育する必要がある。

令和元年度 四季の里 事業所別事業計画及び事業報告

	居宅介護支援事業	<p>①利用者やご家族、地域に対して質の高い支援が実施できるよう努める。</p> <p>②利用者が可能な限り在宅において自分らしい生活を送るために、個々の有する能力に応じた適切なサービスの選択、利用ができるよう支援する。</p> <p>③地域包括ケアシステム構築のために、各関係機関との連携体制を強化する。</p> <p>④ケアプラン件数の稼働率を維持する。</p> <p>⑤各自治体からの要介護認定調査業務を受託する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月末休止に向け、既存31名の引継ぎ書を作成し、段階別に無理なく行うことを目標に動いた。利用者や他機関に迷惑をかけることなく、7月末には全ての利用者を移管できた。 ・ 四日市市にも8月に休止の申請を行った。
保育	どんぐり保育園	<p>①職員の組織化及び役割等の見直しを図り意識向上を目指す。</p> <p>②研修を通じて保育内容の充実を図る。</p> <p>③子ども、保護者支援の強化。</p> <p>④保育園と地域、外部との連携事故災害時の適切な対応。</p> <p>⑤事故災害時の適切な対応。</p>	<p>①・年度途中で職員退職もあり体制的に厳しいところもあったが、園全体で協力し進めることができた。ただ、職員体制確立には至らず、取り組み過程が後手に回ってしまうこともあり反省する。今後はブロックリーダーをたて、主任を軸とした職員体制の確立を目指し取り組みの効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアアップ研修及び他機関研修を積極的に参加でき職員会議などで報告する機会が持てたが、保育に十分活かすことができなかった。引き続き保育のスキルアップに繋がる取り組みを工夫したい。 <p>②・環境に基本的習慣は個々の発達をおさえながら丁寧なかかわりをもって進めることができたが、行事や活動の中で生活リズムの定着が難しいことも多々あった。また、今後は、子どもへの愛着の大切さも伝えながら保護者支援もおこなっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培からのクッキングを通して学ぶ機会を多く設定でき子どもたちの喜びに繋がりが良かった。 ・ 各教室での学びや成果を行事などで発表することができ保護者からも信頼を得ることができた。 <p>③ 職員体制の厳しさも、環境設定を整え活動の充実を図ることができた。また年齢の発達の見通しを持って一人ひとり丁寧なかかわりに心がけられた。ただ、保護者支援に於いては、家庭背景に課題もある家庭が増えてきたことや仕事優先の保護者も多くなり保育園の在り方を含め、子どもの願いなど発信し、子ども支援を保護者とともに考えていく。</p> <p>④・就学に向けた取り組みは積極的におこなえたと同時に小学校との情報共有もスムーズにおこなえた。家庭背景の厳しい子どもも多くなり家庭児童相談室への報告も増えた。今後も「子どもの命」を守るということを意識して保護者支援をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後半、感染症などで交流ができない日が多く残念であったが、交流を通して心の育ちに繋がりたい。 <p>⑤ 避難訓練、防犯訓練、交通安全教室など計画的に進めることができた。訓練はマニュアルを基本としおこなったが、様々な場面を想定しなければならぬと改めて感じることもあり、反省を活かし今後は取り組んでいく。</p>